みはま支援学校学校運営協議会（令和６年度　第３回記録）

協議会趣旨：みはま支援学校の児童生徒の育ちを支えるため、学校や家庭、地域が互いの役割を確認し、協働して特色ある学校づくりを推進するとともに、児童生徒も大人も共に育ち、育て合う取組の推進を図る。

開催日時：令和６年12月9日（月）9:30～11:30
出席者：委員７名、事務局（本校職員）８名、
　　　　高等部生徒会役員２名
　　　　オブザーバー１名（県紀南教育事務所職員）
議　事：【開会】
　　　　①松林清掃の取組報告（高等部生徒より）
　　　　②協議「今後の学校運営について」
　　　　③協議「学校運営協議会を知ってもらうために」
　　　　【閉会】

松林清掃の取組報告

今回、高等部生徒会役員が１１/１２に取り組んだ松林の清掃について活動報告をしました。ランチミーティングで自分たちが考えた「地域貢献」を実現するまでの過程や取り組んだ感想などを発表しました。

発表後、「人手は足りていましたか？」という質問に「時間ももう少し欲しい」と答えていました。委員の皆さんから「今後もPTAにも声をかけて欲しい」「地域の方に恩返ししたいという生徒自身の気持ちが伝わる活動だった」という感想がありました。

生徒たちは発表後、「わりと緊張しました。こうやって自分たちの活動を知ってもらえてうれしい限りです」「今日初めて、ここで発表するので、緊張したけどうまくいったと自分では思います」と語っていました。

協議「今後の学校運営について」

来年度に向け、本校では「学部再編」「高等部・準ずる教育課程」の見直しに取り組んできました。今後、学校がめざす姿について校長・教務部長から説明をし、グループに分かれて教育実践の中で大切にしたいこと等を協議いただきました。

○「学部再編について」

- 病院の感染症対策の方針を受けながら、直接的な交流はまだできていないが、子どもたちはお互いの名前を知るなど、距離が近づいている。
- オンラインを活用し、普段から挨拶を交わせるような取組もできるのではないか。
- 一つの学部にすることで教師間のつながり、集団としての意識を変えていくという点からも「みんなみはまの子」として体制をつくることができるのではないか。
- 子どもたちは、みんなで学んでいくことが当たり前になると、「こうでなくてはならない」から「自分らしくていいんだ」という安心感につながっていくのではないか。そういう意味でも意味のある再編だと思う。

○「高等部教育課程について」

- キャリア教育の充実はみはまの重点課題の一つ。その中核をなす「産業社会と人間」は外部の力をお借りして進められている実感がある。TETAU、美浜町の方、卒業生などいろいろな方の話を聞く機会がある。今後もみはまに来てよかったな、という授業を展開してほしい。
- 子どもたちが卒業後に活用できる制度を在学中から知っていくことが大切だ。働いている人に来てもらい、働くってどういうことかを知る機会を設けてはどうか。
- 自己探求に「みはま探究」を位置づけているが、地域の文化や歴史を調べ、深める展開が楽しみである。学習空白の多い子どもたちに「ベーシック」ではわかるおもしろさを感じられる授業を追求していただきたい。
- 学校の中にいると学校の中の常識でしか考えられないので、いろんな人と関われる場を学校の中に作っていければよい。
- 子どもたちが学びを「自分ごと」としてとらえられるような授業ができれば。

協議「学校運営協議会を知ってもらうために」

PTAにももっと学校運営協議会のことを知ってもらえるような資料を今年度中に作成し、令和７年度　PTA総会で活用する。
（橋本市教育委員会共育コミュニティ通信を参考に）
今後、こういった資料の作成にも生徒が関わり、動画なども作っていければという意見がありました。

【今回のまとめとして…学校長より】
今回も実りある協議をいただいた。みはまで特色ある取組ができ、入学してくる子どもたちの明るい未来を考えることができている。今、いろんな取組をしているが、今後も継続していけるよう、委員のみなさまと一緒にアイデアを考えていきたい。